

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-64C	12-097	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Higher alcohol intake may modify the association between mammographic density and breast cancer: an analysis of three case-control studies. マンモグラフィーの所見と乳がんとの関連に飲酒が影響を及ぼすか		
執筆者		
Conroy SM, Koga K, Woolcott CG, Dahl T, Byrne C, Nagata C, Ursin G, Yaffe MJ, Vachon CM, Maskarinec G		
掲載誌		
Cancer Epidemiol. 2012 Oct;36(5):458-60		
キーワード		
乳がん、アルコール、マンモグラフィー、症例対照研究、プール解析		
要旨		
目的： 飲酒とマンモグラフィーの所見は、乳がんのリスクファクターとして確立している。本研究は、マンモグラフィーの所見と乳がんの関係が飲酒により変わるか、検討した。		
方法： 日本、ハワイ、カリフォルニアの3集団からの症例1,207名と対照1,663名のデジタル画像のマンモグラフィーの所見を解析した。関連の解析にはロジスティック回帰分析を用いた。		
結果： 非飲酒群と飲酒群を比較すると、マンモグラフィーの所見には差はなく、飲酒は乳がんのリスクと関連していなかった。一方で、ハワイと日本の1杯/day以上の飲酒者に限ると、非飲酒者に比べて、乳がんのリスクが高かった。また、日本とハワイの1杯/day以上の飲酒者群では、飲酒はマンモグラフィーの所見と乳がんの関係に影響を及ぼし(p=0.05)、マンモグラフィーの所見を三分位で比較すると、非飲酒者では第二、第三分位群の第一分位群に対する乳がんのオッズ比は1.57、1.61であり、1杯/day以上の群ではそれぞれ、3.65、6.58であった。		
結論： これらの結果は、飲酒者においてマンモグラフィーの所見と乳がんのリスクとの関連を示唆するが、症例数が少なく結果の解釈には慎重を期す必要がある。		